

法学テキストの読み方

大橋洋一

2020年4月発売／118頁／本体1000円＋税
四六判／並製



詳細を見る



法学テキストの読み方

大橋洋一



編集
担当者
から

大学に入学したとき、高校までの教科書との勝手の違いにとまどう人が少なからずいるのではないのでしょうか。本書は、法律学の学習の中心に位置する法学テキストについて、その必要性と選び方・読み方を、30のQ&Aでガイドします。もっともその内容は、テキストの読み方のテクニックにとどまらず、テキストの叙述の基底にある法律学の本質から、テキストを読んでいて困ったときの対処法、テキスト学習のその先への進め方といった、法律学の学び方そのものにも及んでいます。本書には、法科大学院2校でおこなわれた著者の講義の受講生が、テキストをどのように選び、読み、学んでいるかの生の声も反映されています。本誌の読者のみなさんにもきっとヒントにいただけるものと思います。目次を見たりバラバラと頁を繰って、興味あるQuestionから気楽に読んでみてください。巻末の索引で引かれている気になるトピックから本文を参照するのもおすすめです。ちなみに、本書は電子版も配信しています。(目次と索引の利用のしかたはQ12を、電子版テキストについてはQ10をご覧ください！)(Z)

Point!

P

Q&Aは1項目2～4頁の読みきりです。特にお伝えしたいところは太字にしています。

Q 17

question

法学テキストには
通説という言葉がしばしば出てきますが、
何を意味しているのですか？

A 法学では、答えは1つとは限らないことをすでに説き明しました(Q16参照)。ある問題について複数の見解が対立しているという状況は、どの法律科目でも普通にみられることです。もっとも、ある科目を専門にしている研究者100名にアンケートを実施すれば、最も多くの支持を受けている見解を見つけることは可能です。つまり、専門家の間で現在最も支持されている見解が存在することは事実です。このように、**学説のなかでチャンピオンの位置を占める見解を「通説」とよんでいます**。多くの研究者から支持を得るだけのことがあって、一般に、通説の説く論拠には説得的なものが多いといえます。他方で、多くの先生の支持を得るに至っているもの、なお支配的な地位にあるとまではいえない学説が存在し、これを「有力説」とよぶことがあります。支持者が現時点では少ない見解は「少数説」とよばれます。

このように説明すると、通説だけを暗記すれば充分だと思ってしまうかもしれませんが(しばしば、学生から通説を教えてくださいという要望が寄せられますが、その趣旨として、通説に限定して学習したいと希望があるようです)。それは一見したところ合理的で効率的なようですが、法律学の学習法としては間違っています。

以下、その理由を述べます。

1つには、**通説は時代と共に変化する**からです。勝者必衰なのは、法律学における学説も同じです。なぜこうした現象が起きるのかといえば、時間の経過のなかで、社会状況や人々の考え方が変わるからです。社会や人々の意識の変化が新しい法理論を要求することは、これまで歴史上何度も経験してきたことです。したがって、現在の通説を暗記しても、早晩、有力説や少数説に取って代わられることがありうるのです。

2つには、通説の結論自体を覚えることよりも、学説が対立する原因に思いを致すことや、学説の対立のなかで通説が現在の地位に昇り詰めた理由を理解することがいっそう重要だからです。通説の性格や特質を理解するためには、他の見解にも目を向けて諸説を比較するなかで、メリット、デメリットを把握することが不可欠になります。つまり、通説の結論だけを覚えるのは、実は、通説を理解する観点からももの足りないのです。

ドイツの著名な公法学者であるヴェルナー・ヴェーバー(Werner Weber)先生(ゲッティンゲン大学の先生でした)は、「**重要なのは通説ではなく、通説を導く契機となった見解である**」と説かれていました。その趣旨は、現在の通説をありがたがるのではなく、現在の通説がかつて少数説であった際に、当時の通説に対して果敢に問題提起をして今日の通説となるに至ったプロセスこそ高く評価すべきであることを述べたものです。こうした発想で皆が議論するのでなければ、大勢に迎合する者ば

060 第2部 テキストを覗いてみよう | 法律学の特徴を理解しよう |

Q17 法学テキストには通説という言葉がしばしば出てきますが、何を意味しているのですか？ 061

※目次は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

